

若者のライフスタイル希望実現事業

ライフデザインセミナー 「結婚って、いいの？」

タメニー株式会社
CS推進部 自治体支援グループ



目次

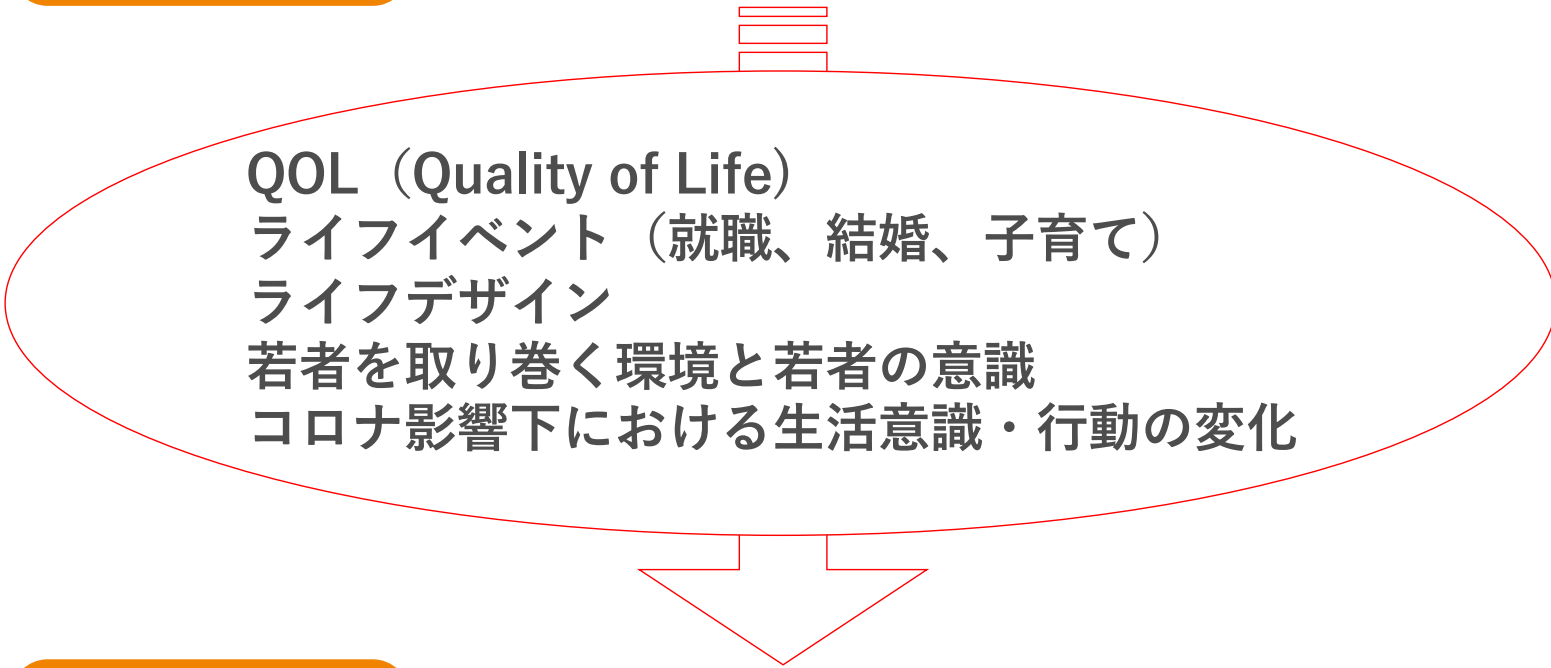
- セミナーの目的とゴール
 - ・ 講師紹介
 - ・ QOLと理想の人生
 - ・ ライフイベント（就職、結婚、子育て等）
 - ・ ライフデザイン
 - ・ 若者を取り巻く環境と未婚者の意識
 - ・ コロナ影響下における生活意識・行動の変化

パネルディスカッションのテーマ

1. セミナーの目的とゴール

目的

- ・理想の将来像を具体的に考える機会とし、ライフデザインの重要性を感じる。



QOL (Quality of Life)
ライフイベント (就職、結婚、子育て)
ライフデザイン
若者を取り巻く環境と若者の意識
コロナ影響下における生活意識・行動の変化

ゴール

- ・人生設計を描く力をつけ、能動的に自ら行動し、将来を計画できるようになる。

1. セミナー講師

タメニー株式会社
CS推進部 自治体支援グループ

久野 清文／くの きよふみ

タメニー、またその他の婚活支援サービス企業の婚活イベントの企画運営に関わり、カップル数を最大化するイベント運営、集客を増やす参加者のニーズに合わせた企画力にて活動中。

就活イベントでの就活セミナーや婚活イベント企画運営担当者向けセミナーの講師を務める。

二児のパパでもあり、自他ともに認めるイクメンである。



2. QOLと理想の人生

Q O L

・ Quality of Life：人生の質や社会的に見た生活の質のことを指し、自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出すこと

◆幸福って？

◆経済的・物質的な豊かさ？

◆生活の満足度？



日常生活の質に価値観を求め、達成することが重要

世界幸福度ランキング2020
(World Happiness Report2020)

日本は、G7諸国最下位の**62位**

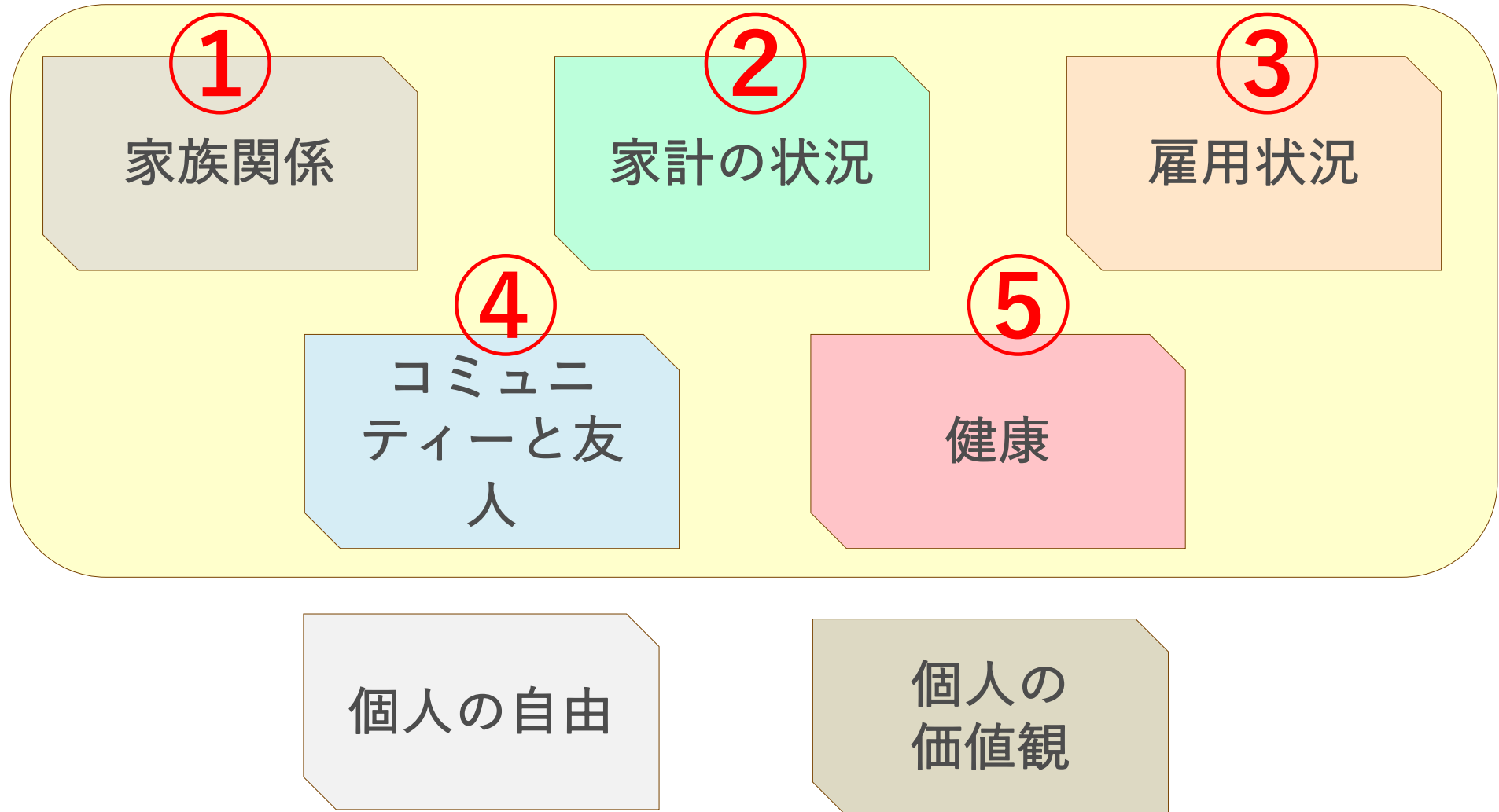
カナダ	11位
英国	13位
ドイツ	17位
米国	18位
フランス	24位
イタリア	30位

主観満足度が、非常に低いのが特徴！（日本）

国連「持続可能な開発ソリューションネットワーク」（SDSN）
発行「世界幸福度報告書」による

2. QOLと理想の人生

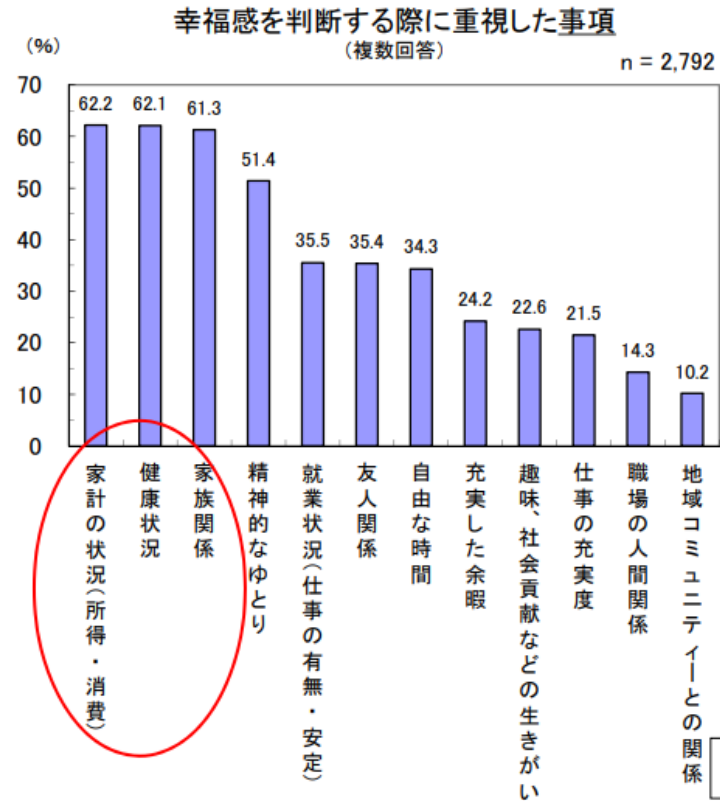
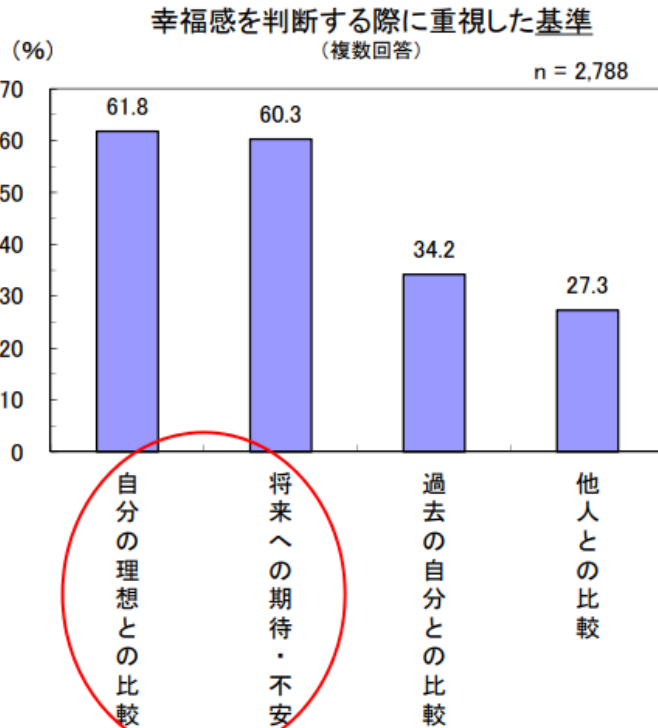
『幸福に影響を与える7大要素』



2. QOLと理想の人生

『幸福感の判断材料』

- 幸福感を判断する際に重視する基準としては、自分の理想との比較や将来への期待・不安が挙げられる。
- 幸福感を判断する際に重視する事項としては、主に、所得や消費といった家計の状況や健康状況、家族関係が挙げられる。



(備考)内閣府「平成23年度国民生活選好度調査」をもとに作成。

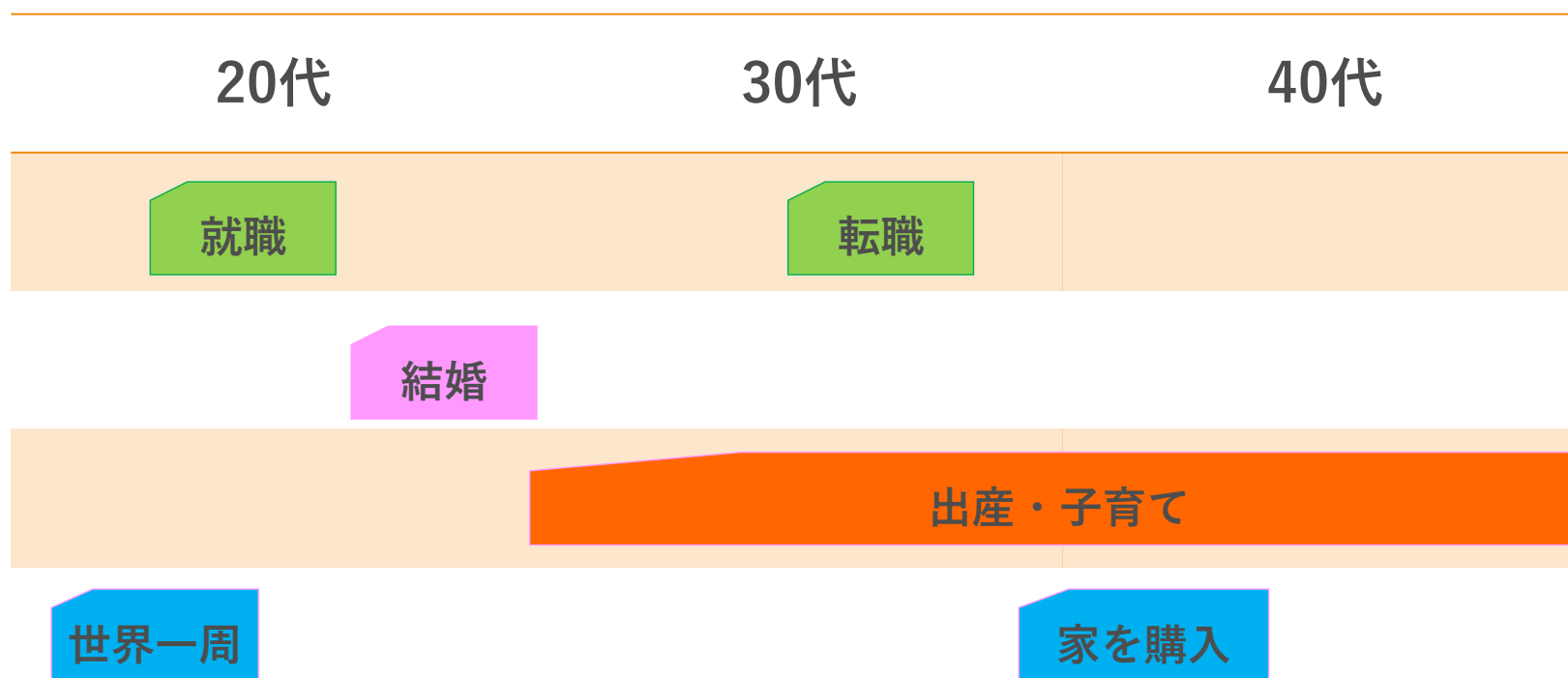
2

3. ライフイベント

ライフイベント

- ・人の一生での出来事です。
- ・進学、就職、結婚、出産、転職、定年、相続などのライフイベントがあります。

ライフイベントも考えあわせながら、自分らしい人生を考えてみましょう！



3. ライフイベント

ライフイベントを選択しながら、自分のライフプランを考えてみましょう。

	20代	30代	40代	50代	60代~
仕事					
ライフ					

<ライフイベントの選択例>

A.就職	B.転職	C.時短勤務	D.結婚	F.子育てサービスの活用
G.家を購入	H.趣味	I.副業	J.退職	K.海外転勤
L.出産	M.産休	N.育休	O.保育園	P.投資
Q.海外旅行	R.親の介護	S.子ども大学卒業	T.孫誕生	U.セカンドキャリア

4. ライフデザイン

ライフデザインを考えるときの重要なポイント

定年退職

住まいの購入

転職

結婚

子育て

就職

- ・自分にとってどうかで判断し、選択する。
- ・複合的に考える。
- ・固定化しない。

後悔のない自分が納得できる人生

4. ライフデザイン

- ・理想の生活に近づけるために、何をしていけばよいのか？

今までと同じ
生活を続ける？

変えられるもの

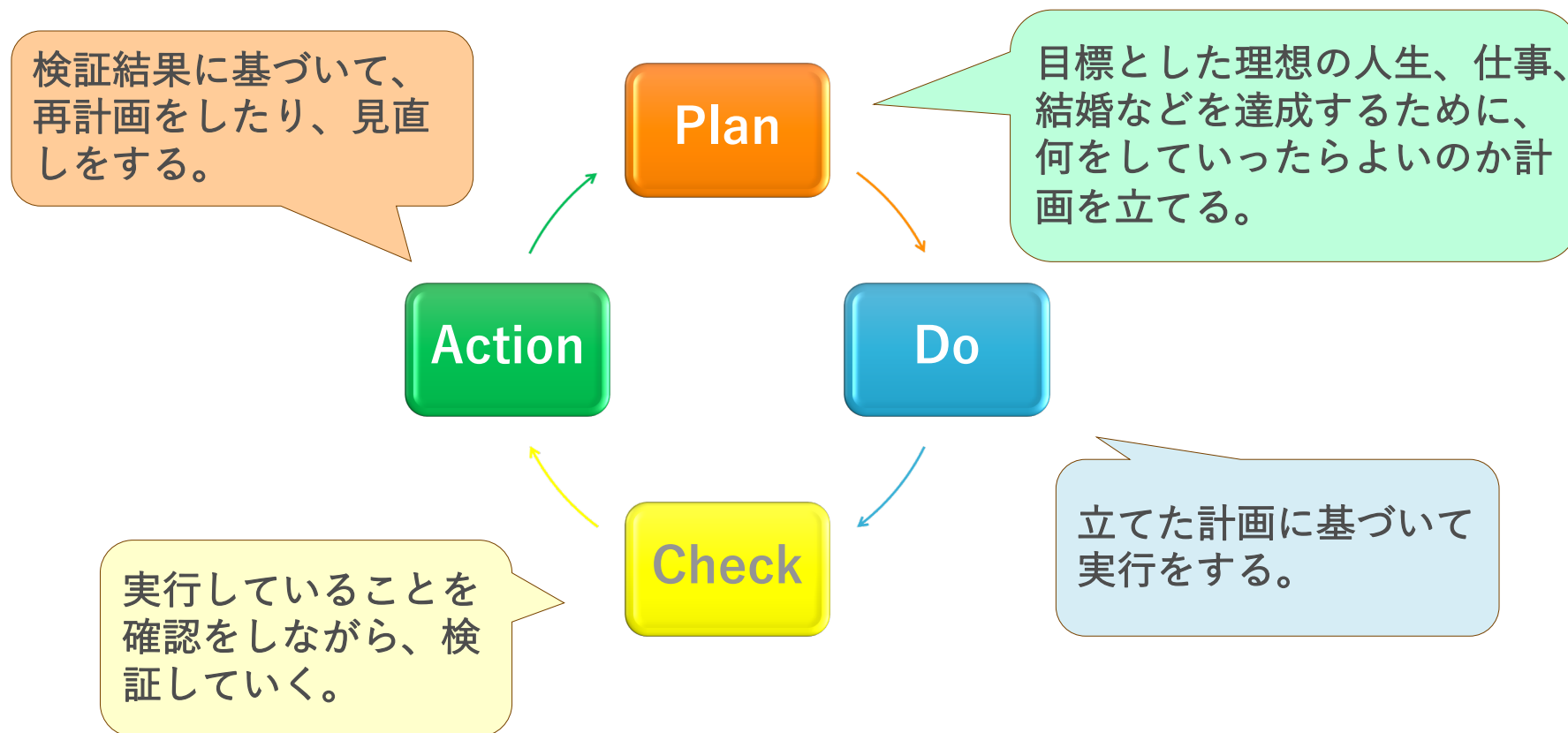
変えられないもの

チャレンジ
できることは何？



4. ライフデザイン

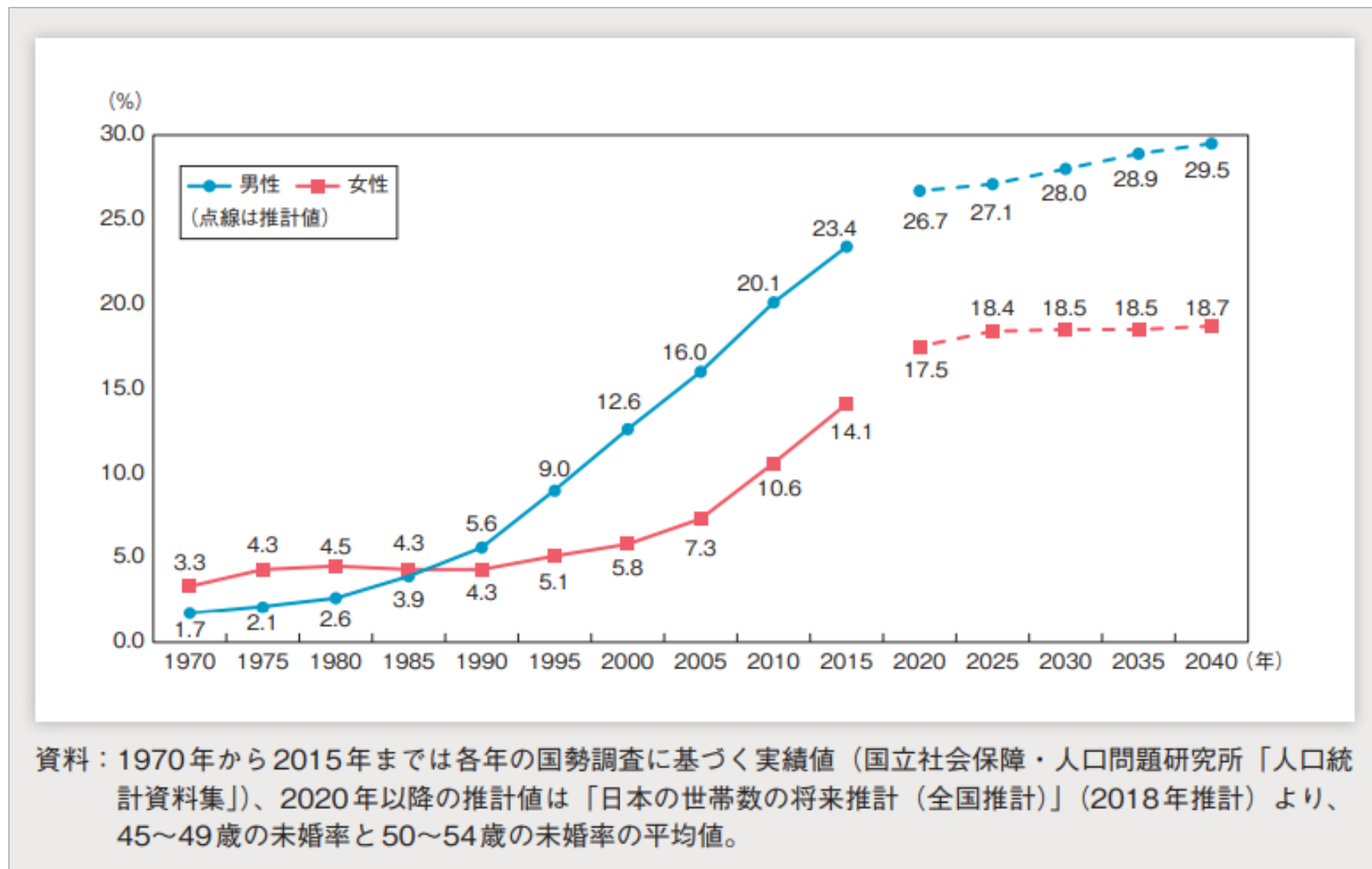
・今回のライフデザインを考える機会を利用して、豊かな人生とは何か、またそれを自分自身で築くためには、何をしていくのが必要かを、自分自身で振り返りながら計画してく力を身につけましょう。



結婚を取り巻く環境と若者の意識

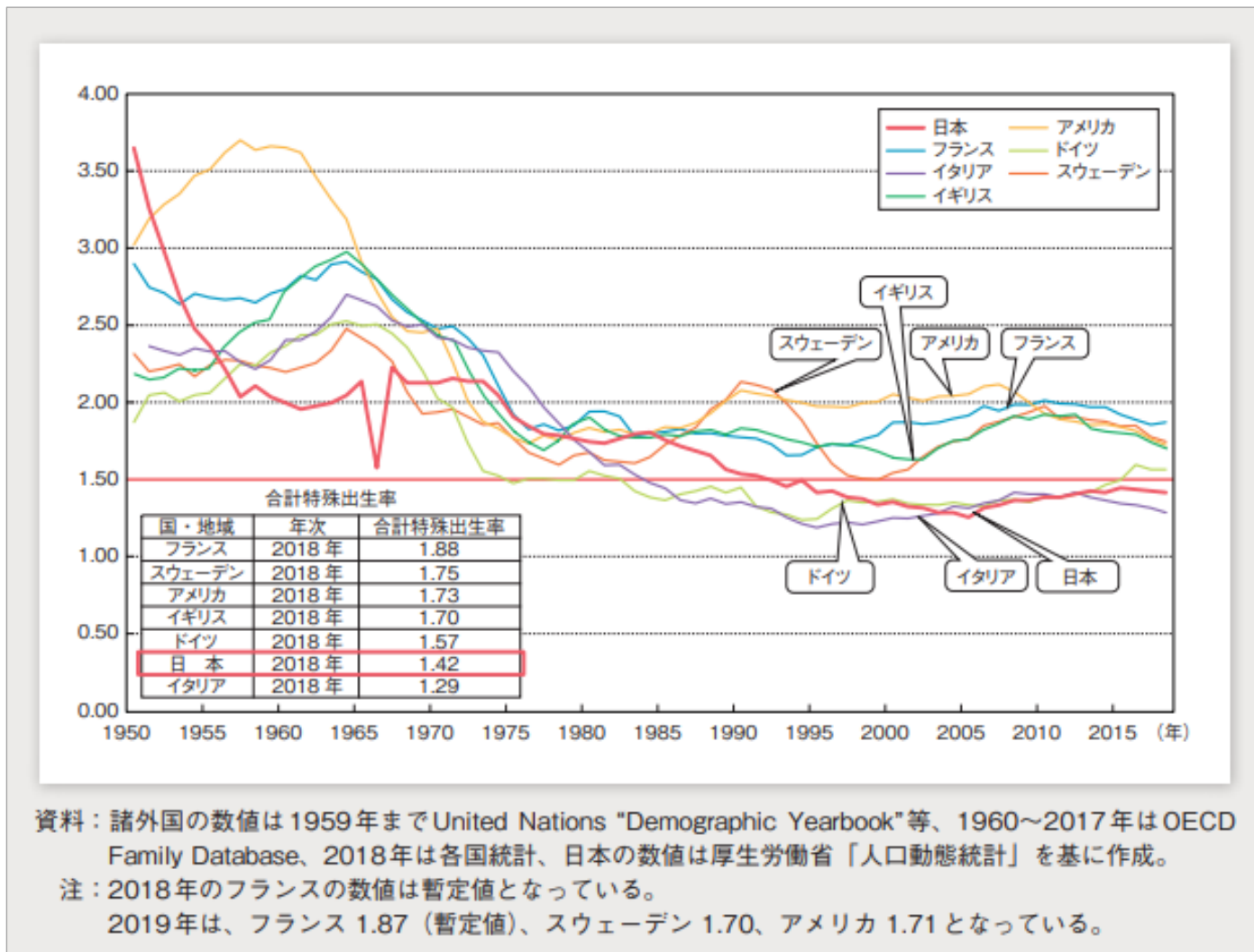
未婚化の進行

『50歳時の未婚割合の推移と将来推計』



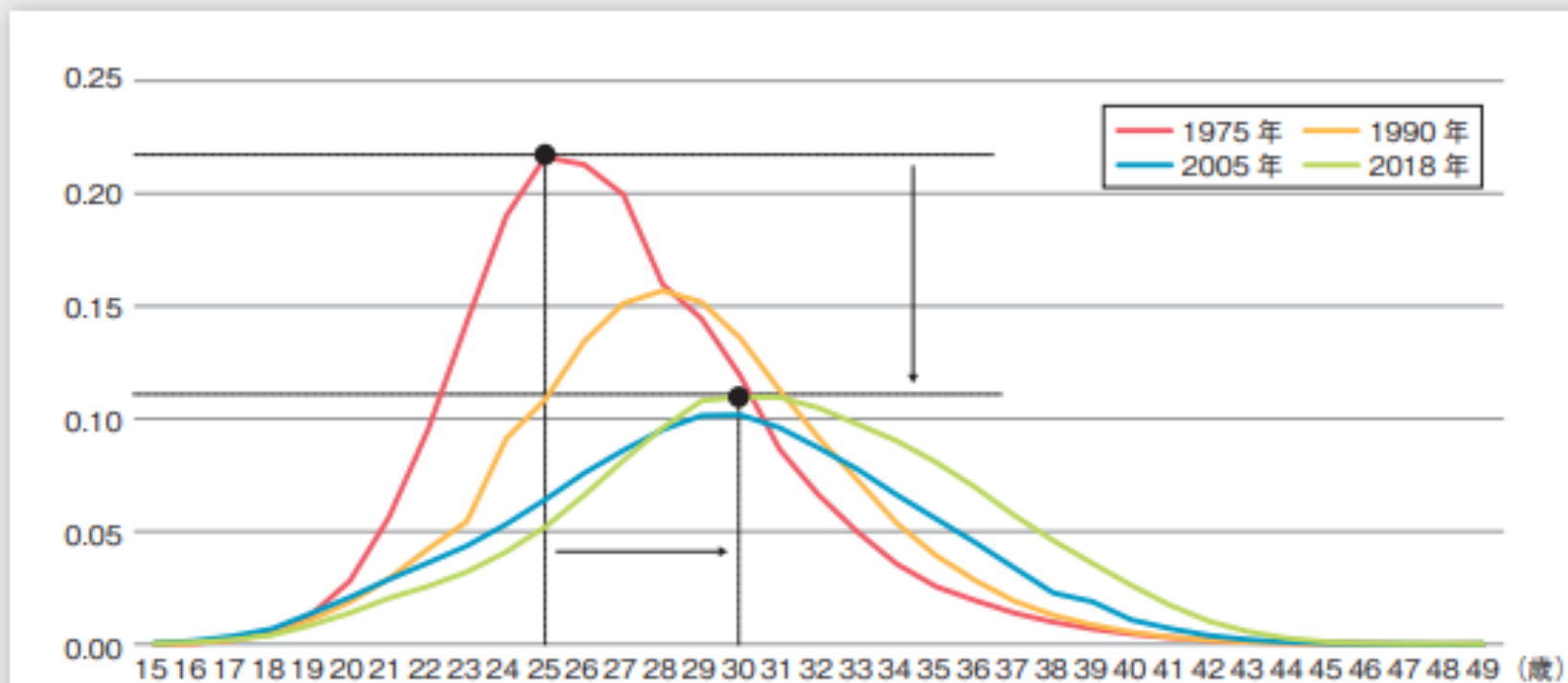
諸外国の合計特殊出生率の動き(欧米)

『合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの』
一人の女性がその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子供数に相当する。



女性の年齢別出生率

1975年は25歳がピーク。2018年は30歳がピーク。
合計特殊出生率は下がっている。1975年25歳で0.22が、2018年は0.05へダウン。



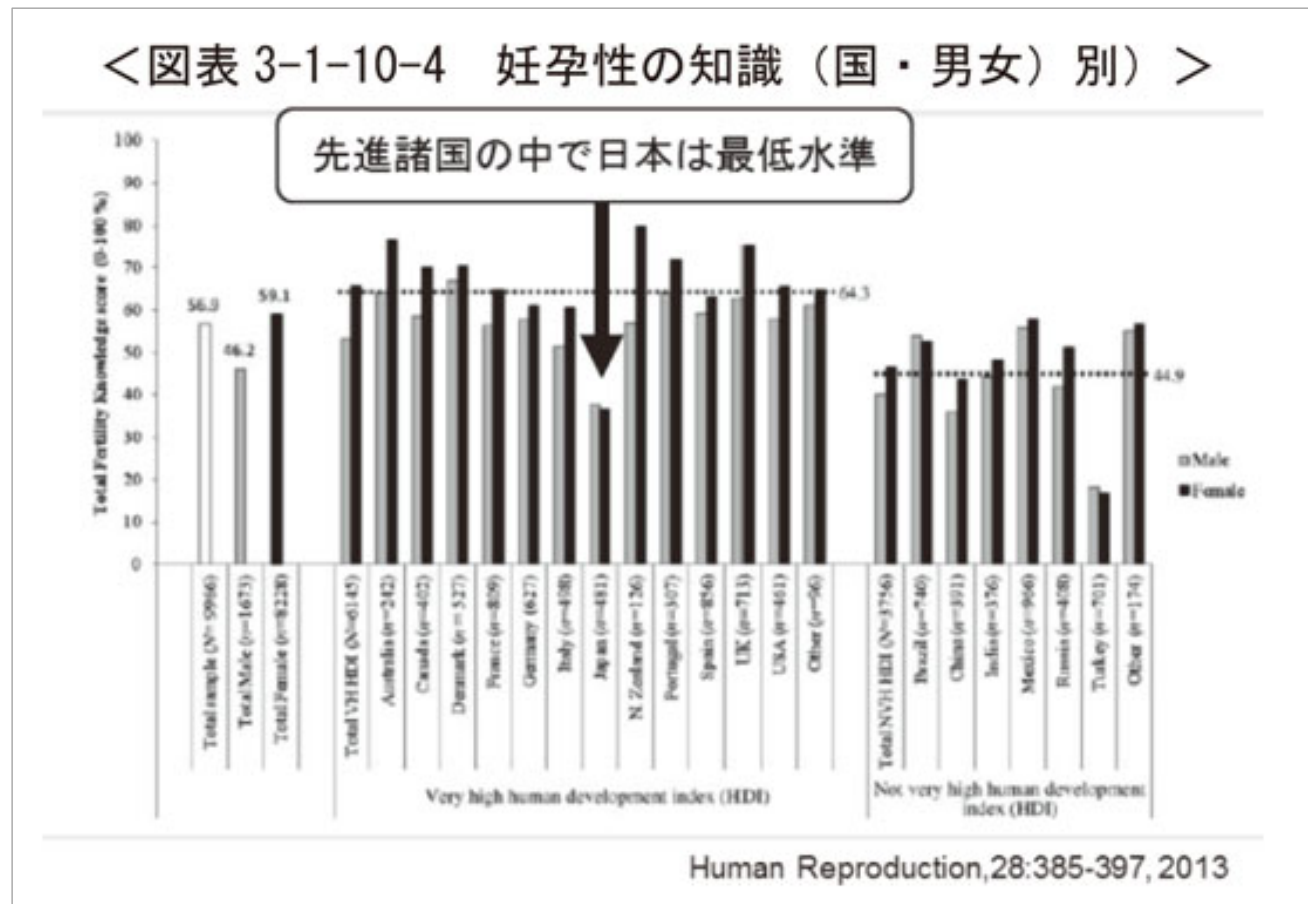
資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2020」を基に作成。

注：女性の年齢別出生率は、(各歳別) 出生数を (各歳別) 女性人口で除したものである。

資料：内閣府 令和2年度版 少子化社会対策白書 より

妊孕性（にんようせい）の知識（国・男女別）

先進諸国の状況を比較した国連の統計によれば、日本は最低の水準となっている。妊娠・出産等に関する正しい医学的な知識を普及させ、若年のうちから自らライフプランを設計できるようにする取組が求められる。



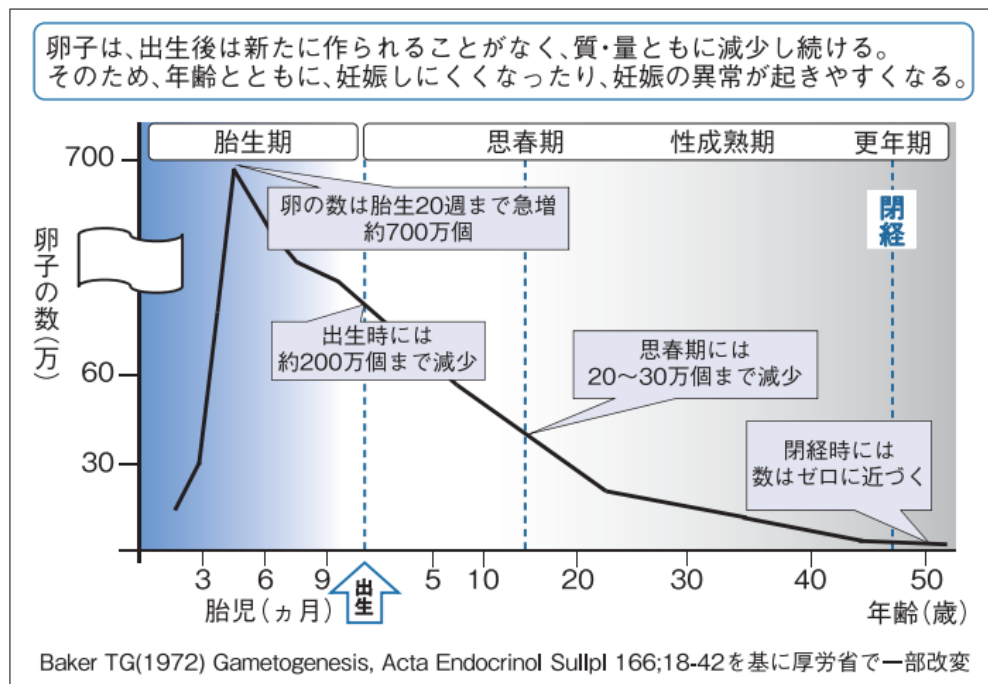
資料：内閣府 平成27年選択する未来 -人口推計から見えている未来像

第3章 人口・経済・地域社会をめぐる現状と課題より

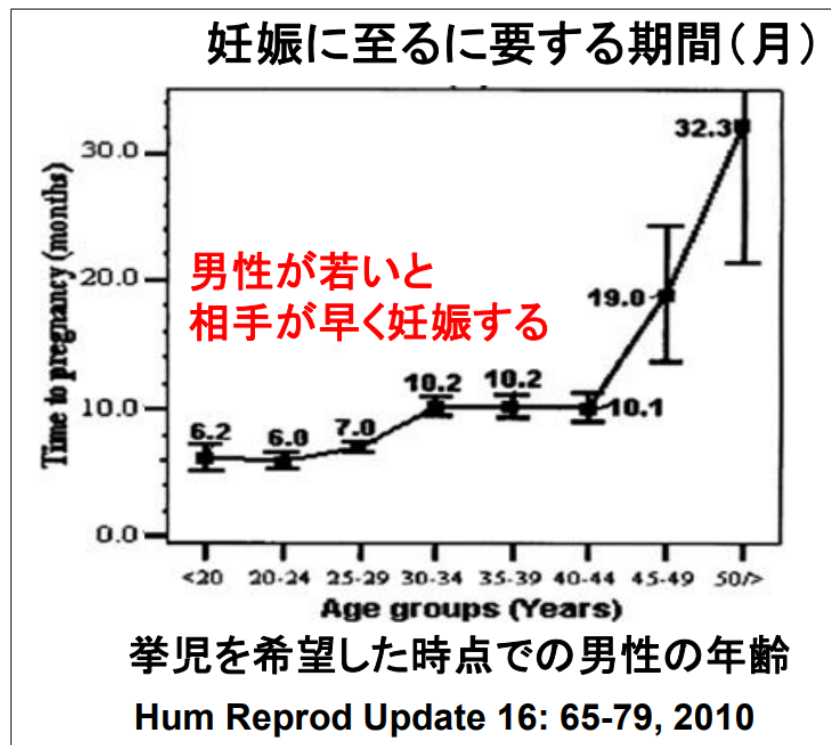
男性・女性ともに妊娠・出産に適した年齢がある。

「いつでも子どもは持てる」と思いがちですが、男性・女性ともに妊娠・出産に適した年齢があります。

【女性の各年齢における卵子の数の変化】



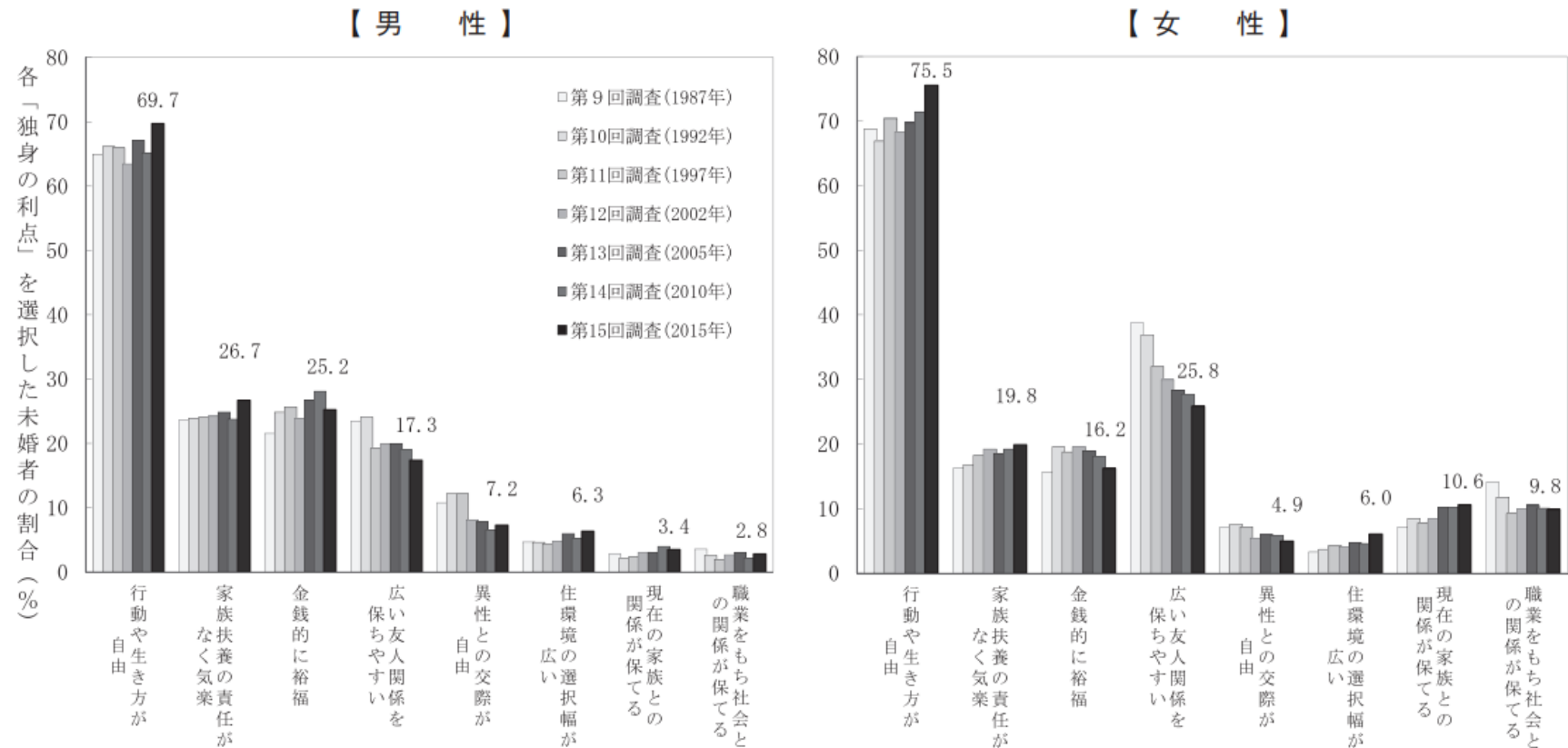
【男性も若い方が妊娠に要する期間が短い】



独身の利点

独身生活の利点は、男女ともに「行動や生き方が自由」を挙げる人が圧倒的に多い

図表 I -1-8 調査別にみた、各「独身生活の利点」を選択した未婚者の割合



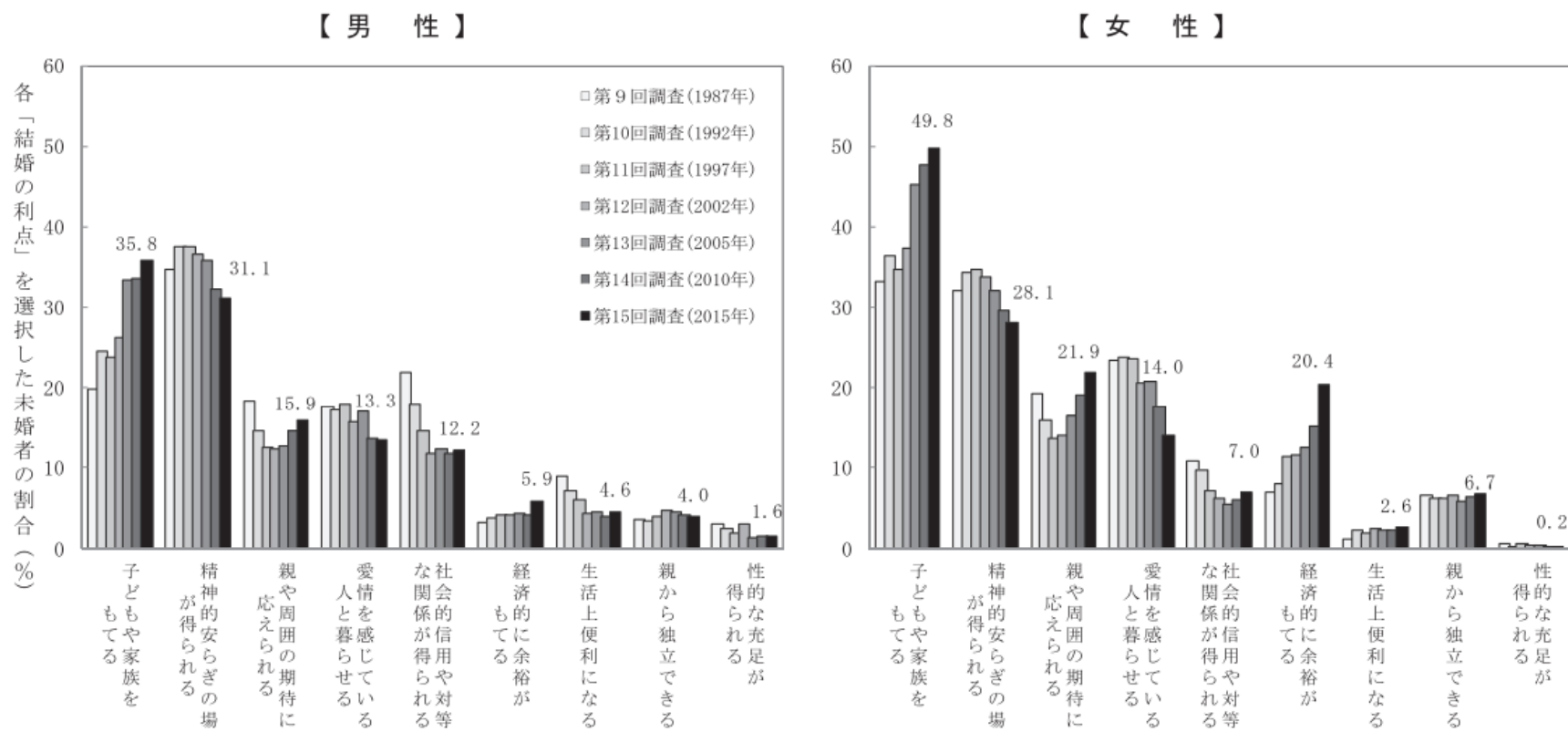
注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な独身生活の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。グラフ上の数値は第15回調査のもの。

資料：国立社会保障・人口問題研究所 2017年現代日本の結婚と出産（第15回出生動向基本調査）より

結婚の利点

結婚することの利点をみると、男女とも「自分の子どもや家族をもてる」を上げる人の増加傾向が続いている。

図表 I-1-6 調査別にみた、各「結婚の利点」を選択した未婚者の割合

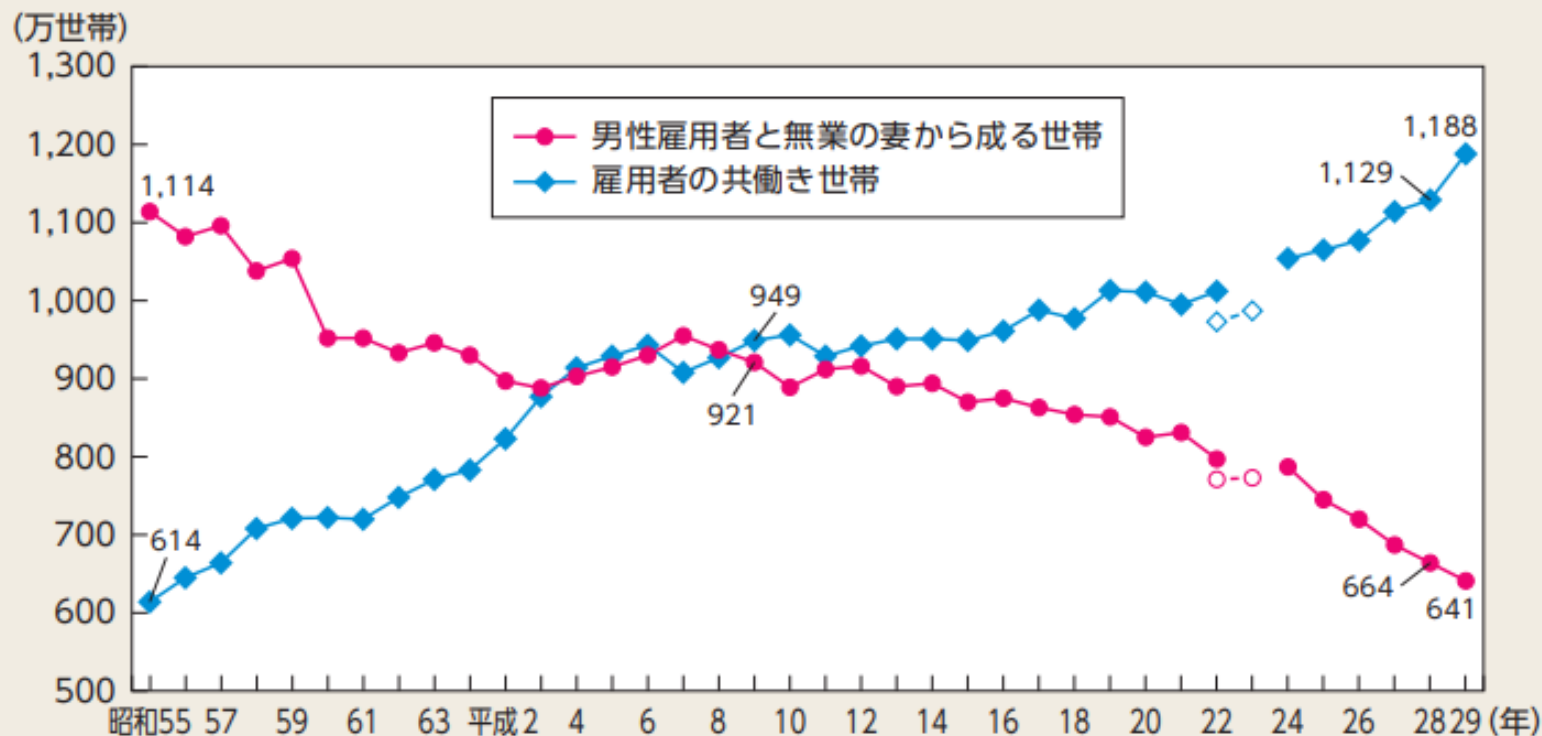


注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を主要な結婚の利点（2つまで選択）として考えているかを示す。グラフ上の数値は第15回調査のもの。

資料：国立社会保障・人口問題研究所 2017年現代日本の結婚と出産（第15回出生動向基本調査）より

結婚後の夫婦の働き方：20歳～40歳の未婚の男女

『平成9年以降は、共働き世帯が上回っている』

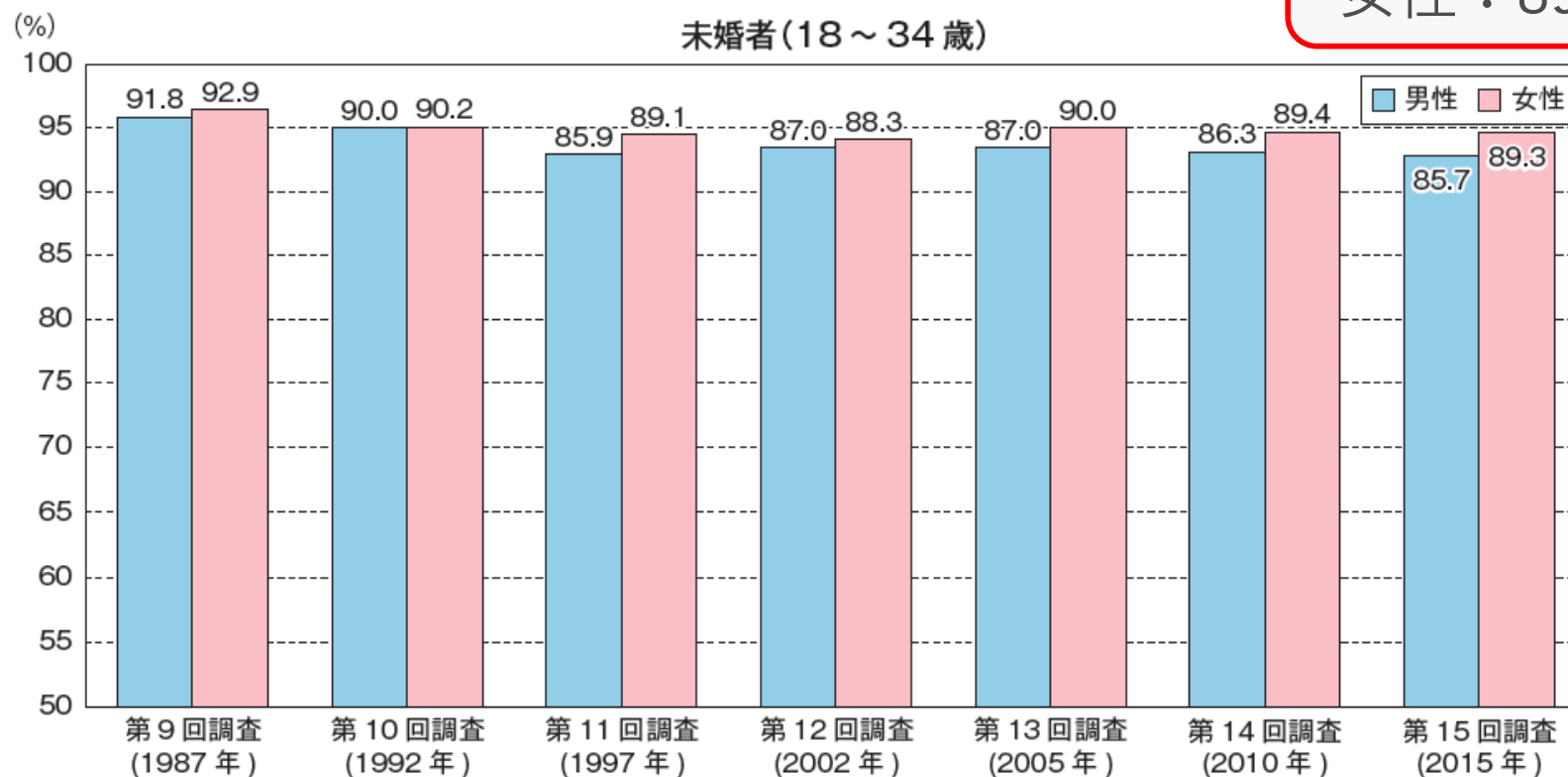


- (備考) 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)の世帯。
4. 平成22年及び23年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

結婚の意思（全国調査）

『いずれ結婚するつもり』と答えた未婚者の割合（18歳から34歳の未婚者）

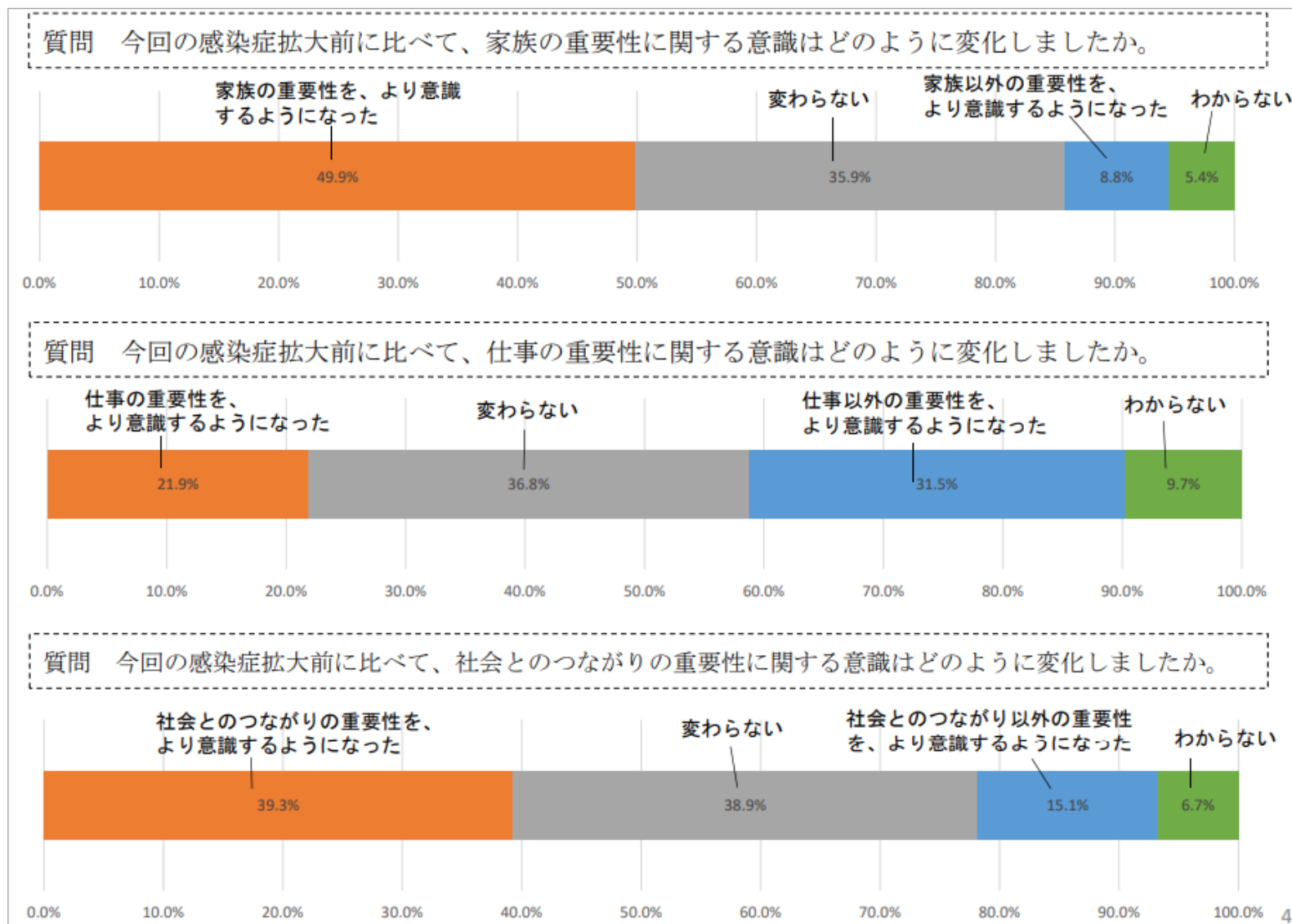
男性：85.7%
女性：89.3%



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（独身者調査）」(2015年)

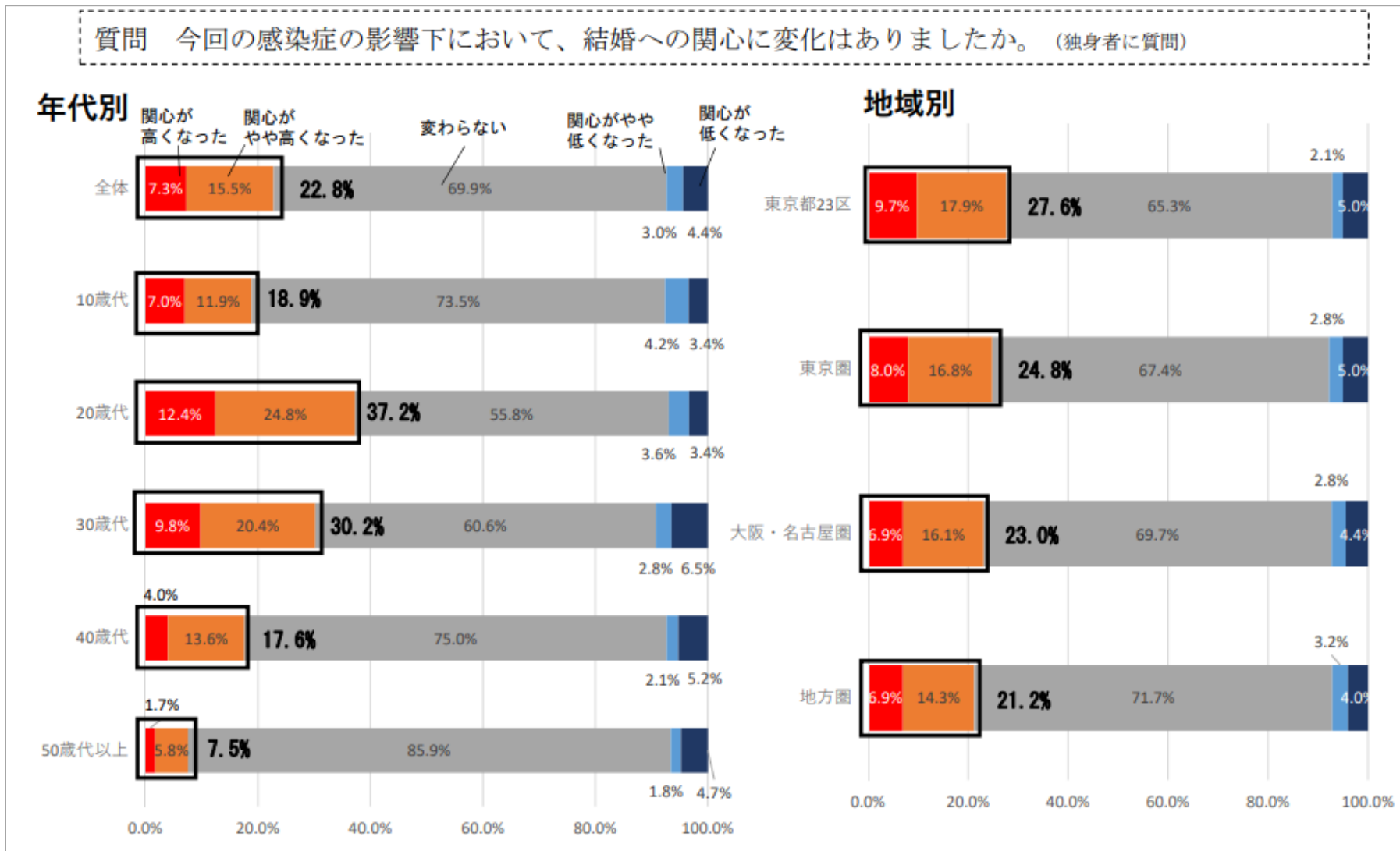
コロナ影響下における 生活意識・行動の変化

重要性を意識するようになったこと



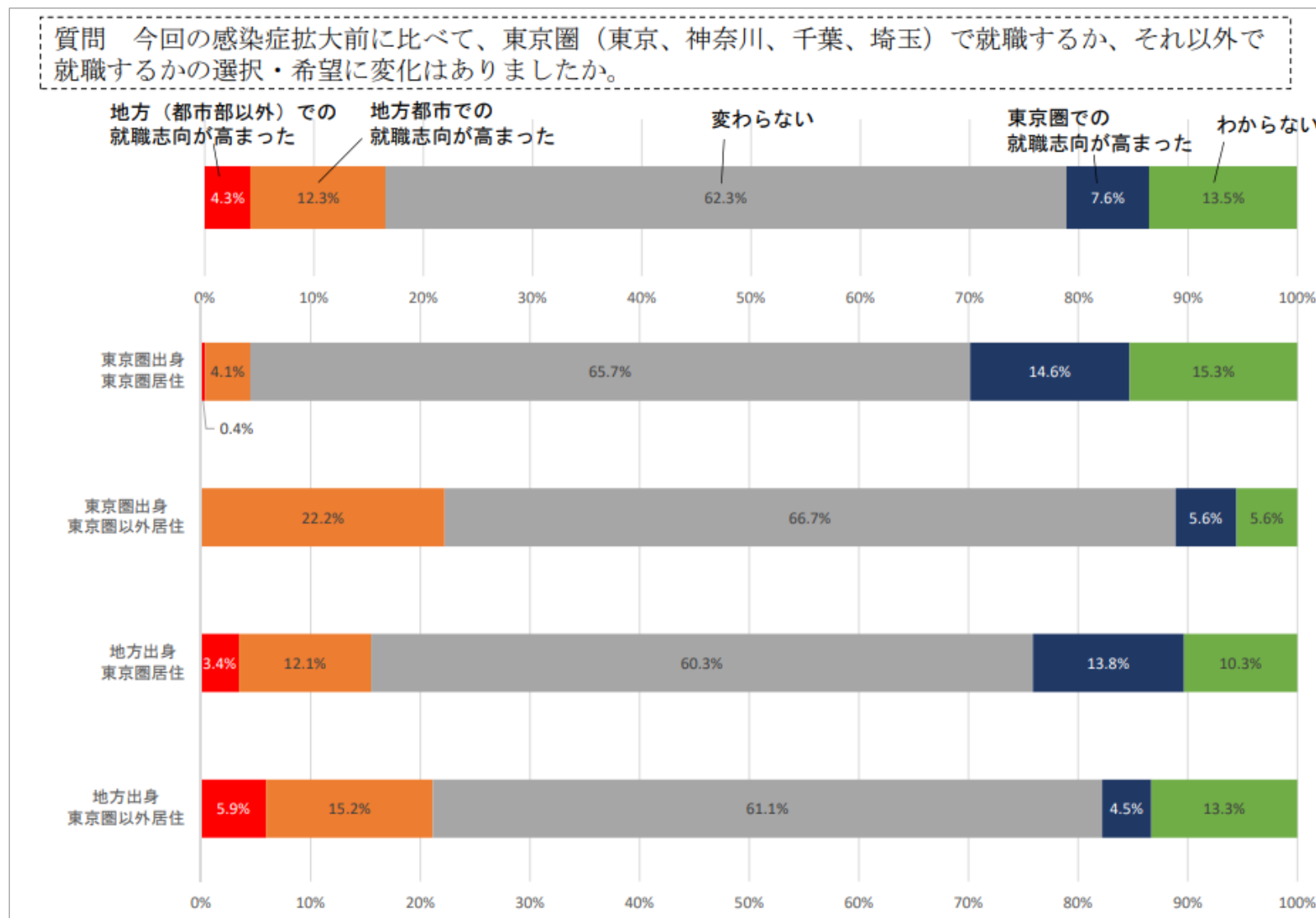
資料：2020年内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」より

結婚への関心



資料：2020年内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」より

(学生) 将来の進路



資料：2020年内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」より

〈パネルディスカッション〉

ゲスト講師



【ゲスト講師】久保光司（くぼ こうじ）様

【生年月日】1993年5月6日（27歳）

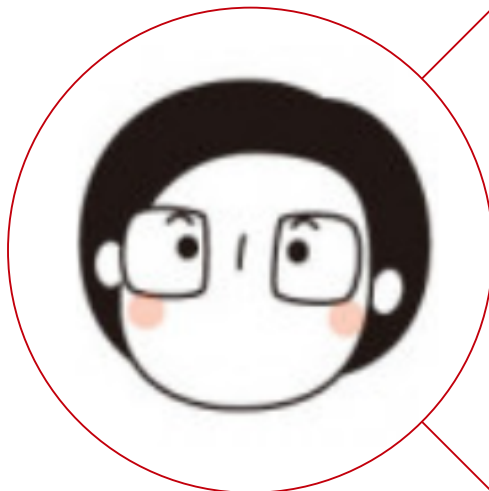
【家族構成】妻/長男(4歳)

【役職】SAiホールディングス 代表取締役

【経歴】高校卒業後、上京しベンチャー企業に入社。広告営業に2年従事。その後、大阪に拠点を移動し、大手外資タバコメーカーに転職。新規事業開発に携わる。

23歳（会社員）で結婚し、長男を授かり子供が生まれたこのタイミングしかないと思い離職し起業。その後、拠点を東京に戻し現在に至る。

現在は、4つの子会社の親会社の代表を務める。



【ゲスト講師】小松千裕（こまつ ちひろ）様

【生年月日】1981年11月27日（38歳）

【家族構成】夫

【役職】つながる文化ターミナルooen店主

【経歴】会社員時代に結婚。夫婦共働きで会社員として働き続けていたが、人生100年時代を意識しはじめ、新しい生き方を模索し始める。

夫が活動していた地域のコミュニティに新しい刺激を求めて参加するうちに様々な働き方や生き方をしている人々と出会い、これからは多様な生き方や暮らし方、働き方がもっとしやすくなるのではないかと思い始める。どうせならば、好きや得意を持ち寄って実験、実践、交流、発信ができ、それが小さいところからいずれ仕事になる！そんなことが叶えられる場所づくりを夫婦で企み2019年9月にオープンさせる。

結婚を決めた理由

結婚のメリット・デメリット

もし結婚をしていなかったら

家庭と仕事の両立

幸せを感じる瞬間

ライフイベントを選択しながら、自分のライフプランを考えてみましょう。

	20代	30代	40代	50代	60代~
仕事					
ライフ					

<ライフイベントの選択例>

A.就職	B.転職	C.時短勤務	D.結婚	F.子育てサービスの活用
G.家を購入	H.趣味	I.副業	J.退職	K.海外転勤
L.出産	M.産休	N.育休	O.保育園	P.投資
Q.海外旅行	R.親の介護	S.子ども大学卒業	T.孫誕生	U.セカンドキャリア

